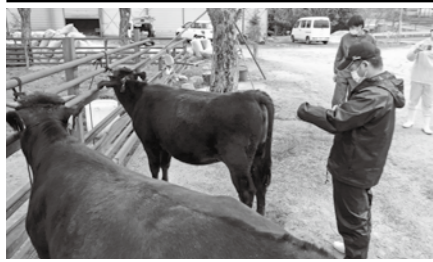


写真で振り返る「第12回全国和牛能力共進会」

01 巡回指導



全共に向けて、全農などの関係機関が出品者を巡回。飼養や調教についてアドバイスをを行った。

02 広島県最終選抜会



7月12日に種牛、8月9日に肉牛の、県代表牛が決定。庄原市から11頭が選出された。

03 広島県出品者結団式



9月9日、JA庄原本所で関係者が出品者を激励。大迫晴由さんが出品者を代表し決意を述べた。

～第12回全国和牛能力共進会

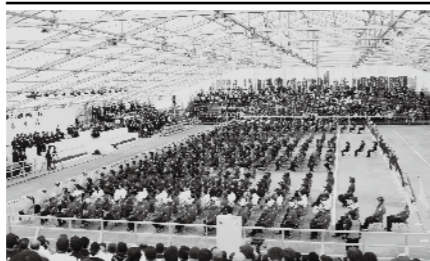
開幕～

04 会場へ到着



10月4日、出品者と出品牛が会場に到着。出品牛を会場内の牛舎へつなぎ、慎重に世話をする。

05 開会式



全共初日の6日、全国から集まった出品者が会場に整列。開会式が開催された。

06 出品牛の手入れ



審査には見栄えも重要。審査に備え、出品牛を丁寧に洗い、毛並みを整える。

07 調教訓練



審査中に出品牛が動き回らないよう、調教訓練を行う。より良い姿勢を保たせるためにも入念に行う。

08 審査



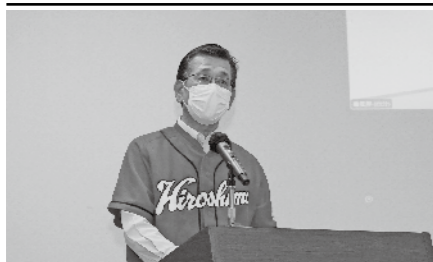
6日～8日、審査員が出品牛を1頭ずつ審査。和牛の発育や品位などを確認し、評価する。

09 和牛振興エリア



審査会場の外では、全国の銘柄牛のPRコーナーや試食コーナーが設けられ、魅力を発信した。

10 現地激励会



8日、等級決定を控える出品者を激励。木山市長をはじめ関係者がメッセージを送った。

11 等級決定



8日～9日、審査の内容を基に再度出品牛を比較。成績が確定し、メダルが贈呈された。

12 記念撮影



審査を終えた出品牛と出品者が記念撮影。出品牛には「ゆたん」と呼ばれる飾りが付けられた。



第12回全国和牛能力共進会 庄原の牛が全国で健闘

農業振興課畜産振興係
0824・73・1227

第12回全国和牛能力共進会（以下、全共）が10月6日（10日、鹿児島県霧島市・南九州市で開催され、全国41道府県から438頭が出場し、その優秀性を競いました。審査の結果、産地規模で勝る九州勢が上位を独占し、広島県代表牛にとって厳しい内容となりました。しかし、県代表牛の中では、第7区で優等賞3席に輝くなど、5年後の次回大会に向けて一層の飛躍が期待されます。

今回の全共では、能力の高い和牛を地域に残し、特色ある血統を確保することがテーマとなっていました。今回の結果を踏まえ、今後広島県を中心に、本市も関係機関と連携し、和牛の質をより高める改良や飼養方法の確立に努め、引き続き和牛産地の振興を目指します。

成績一覧(庄原市出品牛)

出品区(出品数)	名号	出品者(敬称略)	成績
第3区【若雌の2】 (32頭)	ひでみの2	大迫 晴由	1等賞4席
	みやま66	石田 朋大	1等賞6席
第4区【繁殖雌牛群】 (18組54頭<3頭1組>)	じんよし591	大迫 一三	1等賞5席
	じんよしふじ1		
	じんよしふじ5		
第5区【高等登録群】 (16組48頭<3頭1組>)	たけわりえぼし	(農)ファーム金田	1等賞5席
	たなか5の10	長田 直久	
	土井原4177	(株)ひば高原田中牧場	
第6区【総合評価群】 ・種牛群 (15組60頭<4頭1組>) ・肉牛群 (15組45頭<3頭1組>)	沖百合565	(株)ひば高原田中牧場	1等賞5席
	さらしば	広島県立庄原実業高等学校	
特別区 【高校及び農業大学校】 (24頭)	さらしば	広島県立庄原実業高等学校	優等賞18席

Interview 計画的な改良で5年後を目指す

全共出品者の皆さん、関係機関の皆さん、本当にお疲れ様でした。全共への出品は、飼養期間が長く、会場も遠いため、出品者には大きな負担がかかります。また、和牛の調教には時間も根気も必要で、並大抵の苦労ではなかったと思います。広島県を背負って闘った皆さんに、感謝申し上げます。

今回の全共では、産地規模の大きい九州勢に、苦戦を強いられる結果となりました。

5年後の次回大会に向けて、このような大規模生産地を相手に上位を狙うためには、将来を見据えた早めの取り組みが重要です。当組合としては、これまでの優れた種雄牛を残す取り組みに加え、毎年開催される県の共進会で、優秀な成績を残した雌牛を選抜し、種雄牛・雌牛合わせての計画的な改良が大切だと考えます。

また、農家の皆さんに「和牛を全共に出品したい」と思ってもらえるような取り組みも重要です。次回大会に向け、県を中心に、より一層の協力体制で臨みます。



庄原和牛改良組合
やまひろ 山岡 芳晴 組合長